



**平成28年12月期
第1四半期決算説明資料
(2016年)**

2016年5月12日

昭和シェル石油株式会社

注意事項

この資料には、当社グループ(当社及び連結子会社)の将来についての計画や戦略、業績に関する予想、見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、本資料の発表日現在における情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、経済情勢や市場動向、並びに為替レートの変動等の要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がありますので、予めご了承下さい。

業績概要（2016年第1四半期）

	2015年 1-3月	2016年 1-3月
		億円

石油事業営業利益(CCS*ベース)	85	103
エネルギーソリューション事業営業利益	-6	-4
CCS*ベース営業利益	78	98
経常利益	-188	-88
CCS*ベース経常利益	79	92
親会社株主に帰属する四半期純利益	-143	-69
CCS*ベース親会社株主に帰属する四半期純利益**	28	51
1株当たり親会社株主に帰属する四半期純利益(円)	-38.1	-18.4

(注)「その他」および「調整額」は石油事業に含む

* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いた利益)

**親会社株主に帰属する四半期純利益(CCSベース):

在庫評価の影響を除いた四半期純利益(法人税等への影響は簡易的に算出)

2016年第1四半期 決算

- CCSベース経常利益は92億円、前年同期比で増益。原油価格下落により、在庫評価影響を含む経常利益はマイナス
- 石油事業CCSベース営業利益は前年同期比で増益。エネルギーソリューション事業営業利益は赤字縮小

石油事業ハイライト

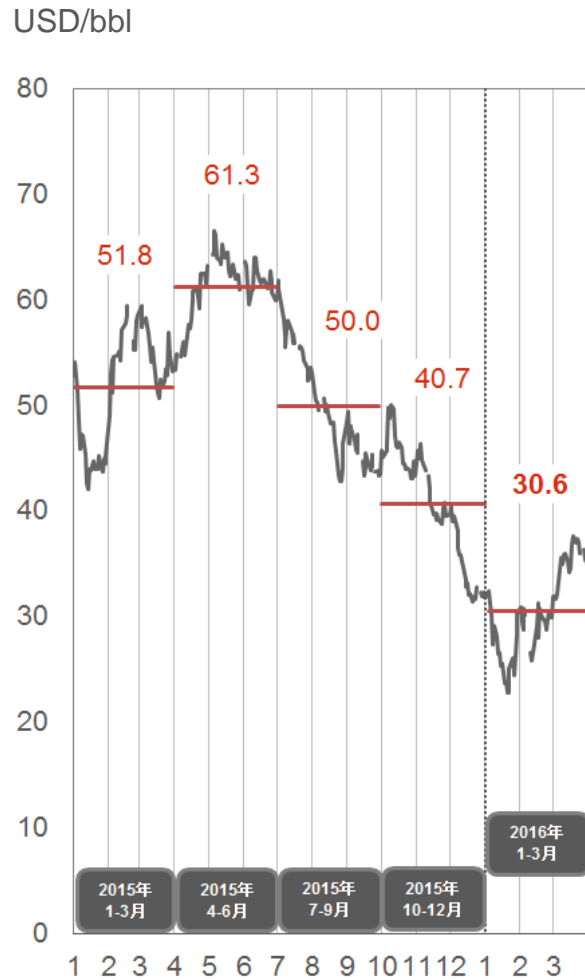
- マージンは、原油価格下落および円高により、原価低減より製品価格下落が先行するタイムラグ影響が発生する中で伸び悩んだものの、実質的な収益力を示すCCSベースの収益は前年比増益を確保
- ガソリン・軽油など主要4油種の国内販売数量対前年同期伸び率は業界平均を上回った。製品輸出も継続して積極的に実施
- グループ製油所稼働率は業界を上回る水準を維持

エネルギーソリューション事業ハイライト

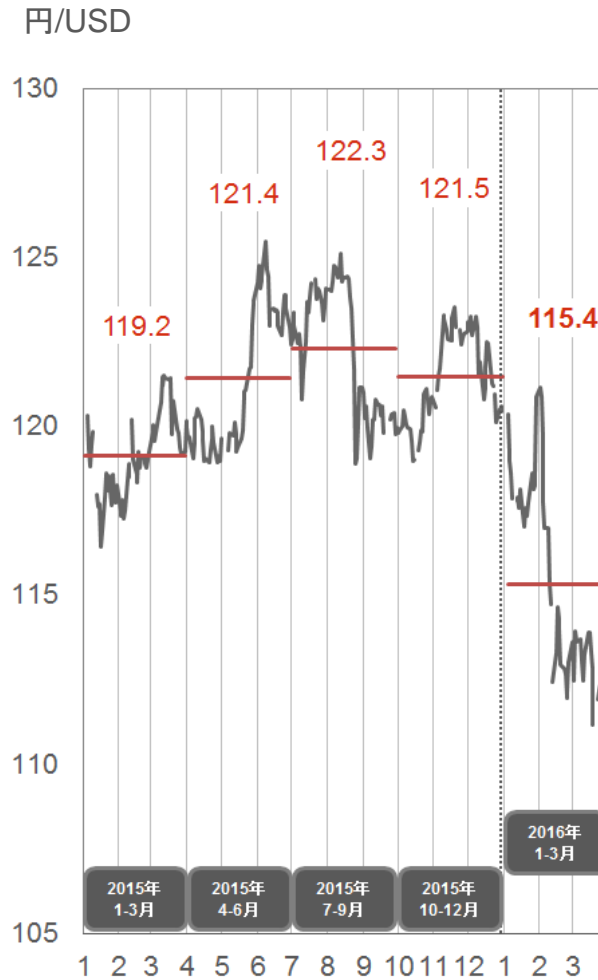
- 営業利益は前年同期比で改善
- (太陽電池事業)パネル出荷数量は前年同期比で増加したものの、国内販売単価下落、海外販売拡大ならびに為替インパクトによって平均販売単価が低下し、前年同期比で若干の減益
- (電力事業)前年同期比で増益。新設した2発電所の貢献が主要因。安定的かつ効率的な発電所稼働および販売ポートフォリオ最適化により収益向上

事業環境－原油、為替

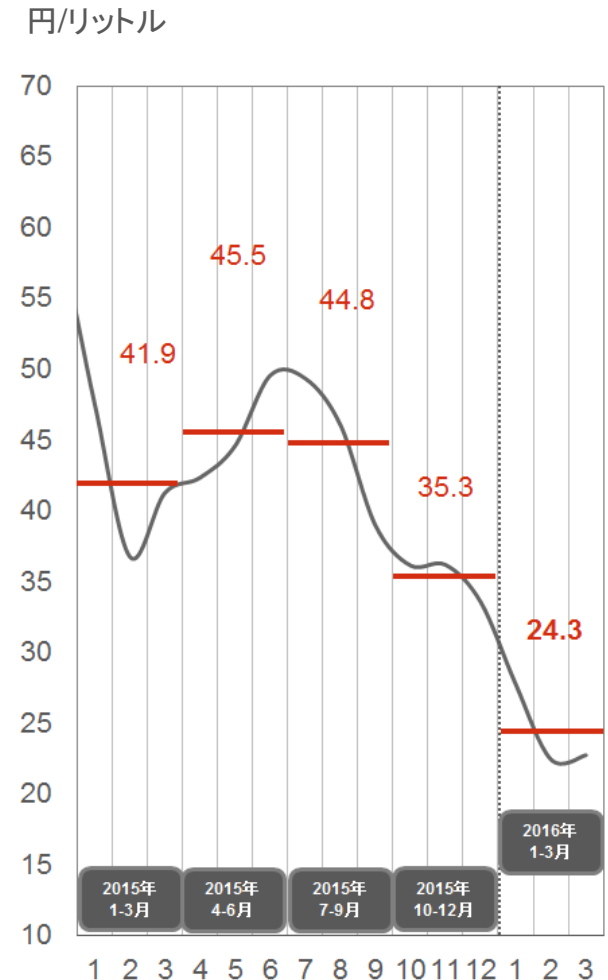
ドバイ原油価格



為替レート(ドル)



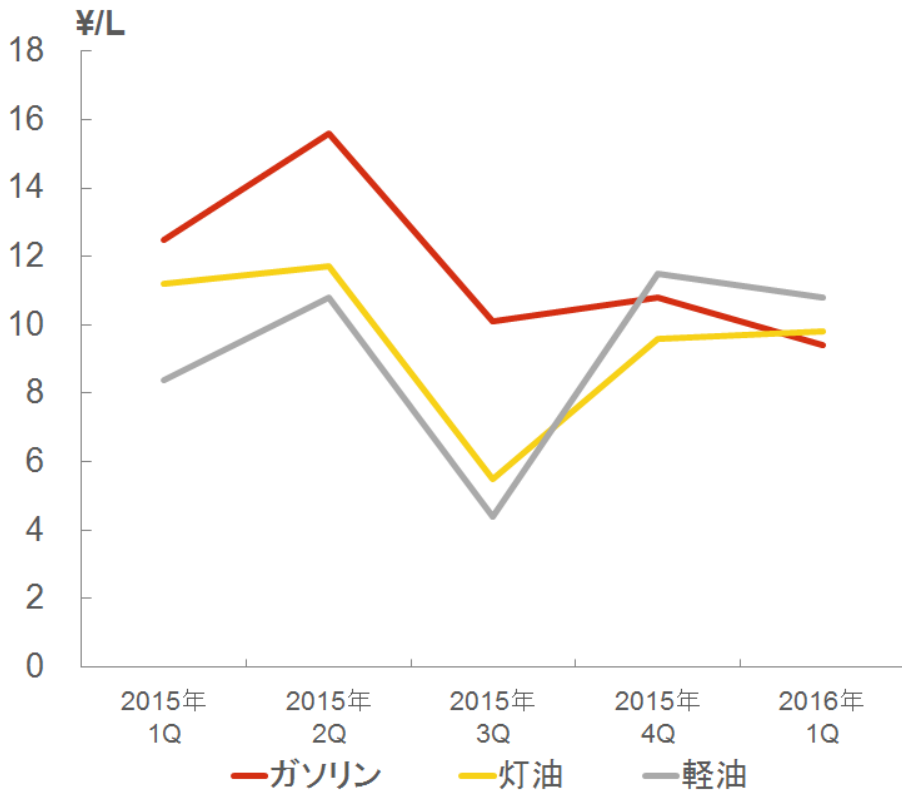
原油通関CIF価格



出典：財務省「貿易統計」

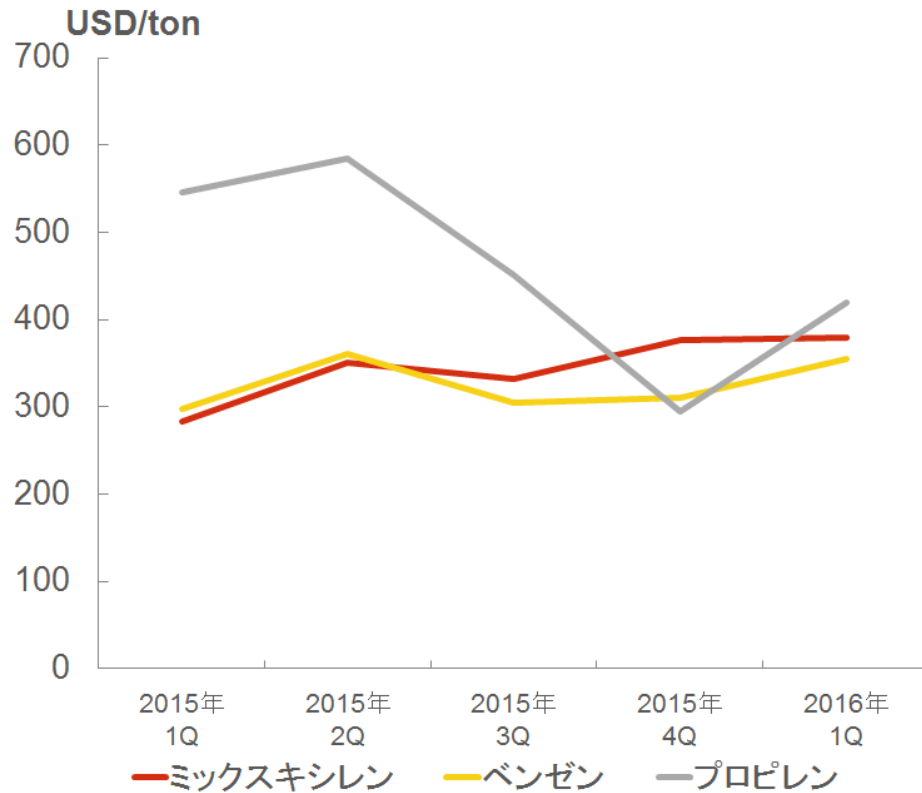


国内石油製品マージン



※ 国内スポット価格－原油通関CIF

アジア極東地域 化成品マージン



※ スポット製品価格－ドバイ原油スポット価格

- 国内石油製品マージンは、大幅な原油価格下落および急速な円高に伴うタイムラグ影響を受け、ガソリンは前四半期比で低下。軽油マージンは安定的に推移するも、灯油は1月前半までの暖冬の影響で伸び悩み。総体的には一定のマージン水準を維持
- 化成品マージンについて、当社主力のミックスキシレンは安定推移。ベンゼンやプロピレンについてはアジア市場での需給環境改善により、前四半期比で改善した

決算ハイライト（1-3月）

■ 原油価格および為替レート

		2015年 1-3月実績	2016年 1-3月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	51.8	30.6
為替レート	(円/USD)	119.2	115.4

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2015年 1-3月実績	2016年 1-3月実績	増減	前年同期比
売上高	602,740	432,785	- 169,955	-28.2%
営業利益	-18,941	-8,137	+ 10,804	-
営業外損益	117	-670	- 788	-
経常利益	-18,823	-8,807	+ 10,015	-
※在庫影響	-26,800	-18,022	+ 8,777	-
※CCSベース経常利益	7,976	9,214	+ 1,238	+15.5%
特別損益	1,701	2,671	+ 970	+57.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	-14,354	-6,942	+ 7,412	-
※CCSベース親会社株主に帰属する四半期純利益	2,894	5,121	+ 2,227	+77.0%

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの利益:在庫評価の影響を除いた原価を用いて算出する利益

セグメント情報 (1-3月)

■ 売上高

(百万円)	2015年実績 1-3月	2016年実績 1-3月	増減	前年同期比
石油事業	575,404	392,831	- 182,572	-31.7%
エネルギーソリューション事業	25,331	37,972	+ 12,641	+49.9%
その他	2,004	1,980	- 24	-1.2%
売上高 計	602,740	432,785	-169,955	-28.2%

■ 営業利益

(百万円)	2015年実績 1-3月	2016年実績 1-3月	増減	前年同期比
石油事業	-18,566	-8,078	+ 10,487	-
※在庫影響	-26,800	-18,022	+ 8,777	-
※石油事業CCS営業利益	8,233	9,943	+ 1,709	+20.8%
エネルギーソリューション事業	-667	-418	+ 249	-
その他	286	355	+ 69	+24.3%
調整額	7	4	- 2	-36.7%
営業利益 計	-18,941	-8,137	+ 10,804	-
※CCS営業利益 計	7,859	9,885	+ 2,026	+25.8%

・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売

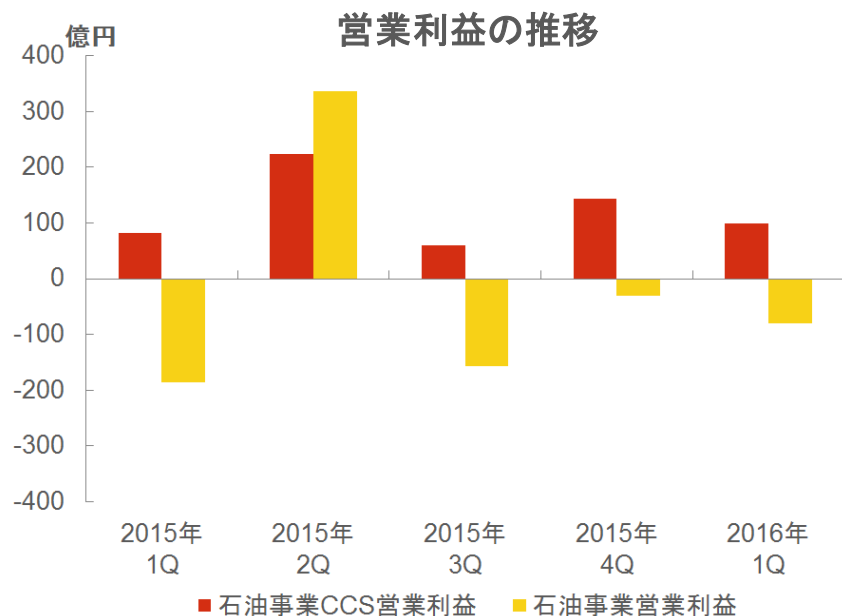
・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の供給・販売

・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

セグメント別業績概要(1-3月)



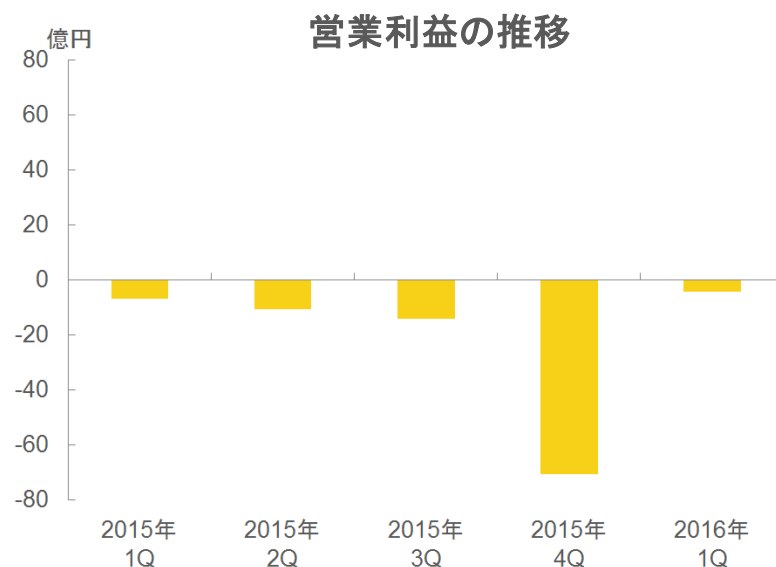
石油事業



- 第1四半期のCCSベース営業利益は、前年同期比では増益も、前四半期比では減益。原油価格下落等のマージン下押し影響を受けたものの、一定の収益水準は確保
- 製品輸出にも積極的に取り組み、引き続き収益に貢献
- 原油価格の大幅下落および円高により、第1四半期は在庫影響が利益押し下げ要因となった



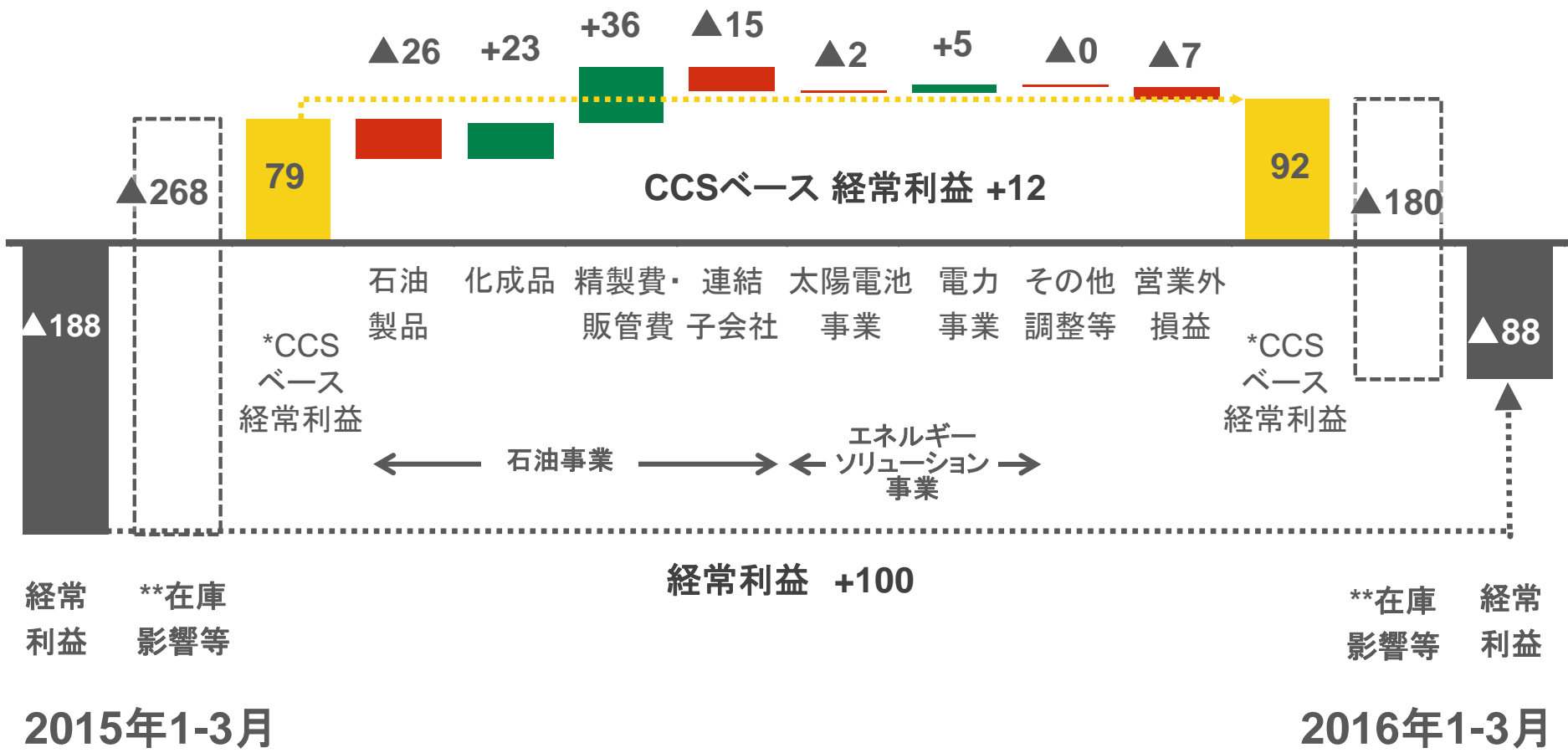
エネルギーソリューション事業



- 第1四半期営業利益は、前四半期比では大幅に改善するも、赤字は継続
- 太陽電池事業収益は、前四半期比で大幅改善。計画に沿ったパネル出荷進捗で、国内外比率をコントロールした。主力の国富工場は高稼働を継続
- 電力事業は前年同期比で増益、安定した収益を確保。昨年11月の京浜バイオマス発電所および当年2月の扇島パワーステーション3号機の商業運転開始が貢献

前年同期比 要因分析(経常利益)

単位：億円



経常利益 **在庫影響等

経常利益 +100

**在庫影響等 経常利益

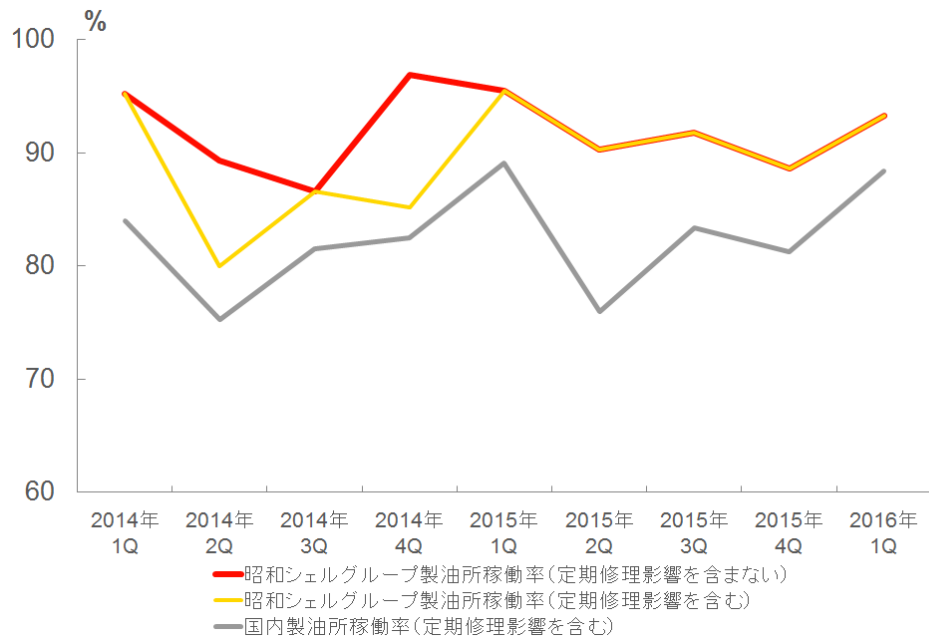
2015年1-3月

2016年1-3月

* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)
 ** 「在庫影響等」には、たな卸資産の簿価切下げによる影響を含む。

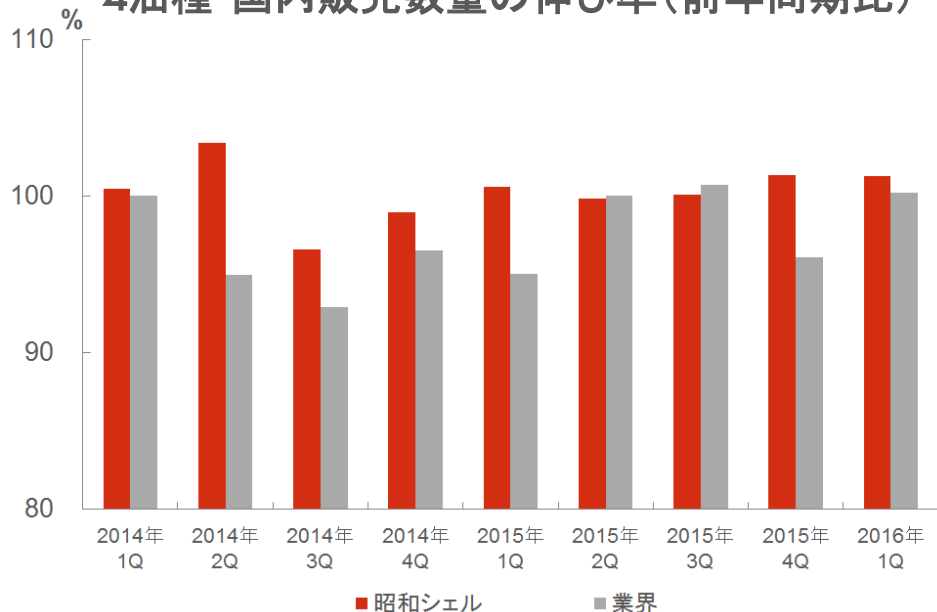


製油所稼働率



出典：石油連盟

4油種*国内販売数量の伸び率(前年同期比)



*4油種： ガソリン、灯油、軽油、A重油
 出典： 経済産業省「資源・エネルギー統計」
 ※2016年1Qの業界は速報値

- グループ製油所稼働率は、堅調な国内販売および海外マージン動向を背景に、引き続き業界平均を上回った
- 比較的付加価値の高い燃料油であるガソリン、灯油、軽油など4油種合計の国内販売数量は、前年第4四半期に引き続き前年を上回るとともに、対前年伸び率も業界を上回った
- 比較的収益性の高い化成品を最大限生産するとともに、追加的な収益機会として製品輸出を継続して積極実施。特にマージンが良好であったガソリンの輸出を強化した

原油処理実績と販売数量実績（1-3月）



■ 原油処理実績とグループ製油所稼働率

		2015年 1-3月実績	2016年 1-3月実績
原油処理実績	(千KL)	6,083	6,009
稼働率		95.5%	93.3%

(注記)

原油処理実績および稼働率は京浜・四日市・山口の3製油所合計

■ 製品別販売数量

(千KL)	2015年 1-3月実績	2016年 1-3月実績	前年同期比
揮発油	2,079	2,078	- 0.0%
ジェット燃料	438	463	+ 5.7%
灯油	1,159	1,185	+ 2.3%
軽油	1,326	1,316	- 0.8%
A重油	566	617	+ 9.0%
C重油	313	308	- 1.6%
化成品* (千MT)	272	263	- 3.2%
その他	818	540	- 34.0%
国内販売合計	6,971	6,771	- 2.9%
輸出	803	611	- 24.0%
総合計	7,774	7,381	- 5.1%

(補足)

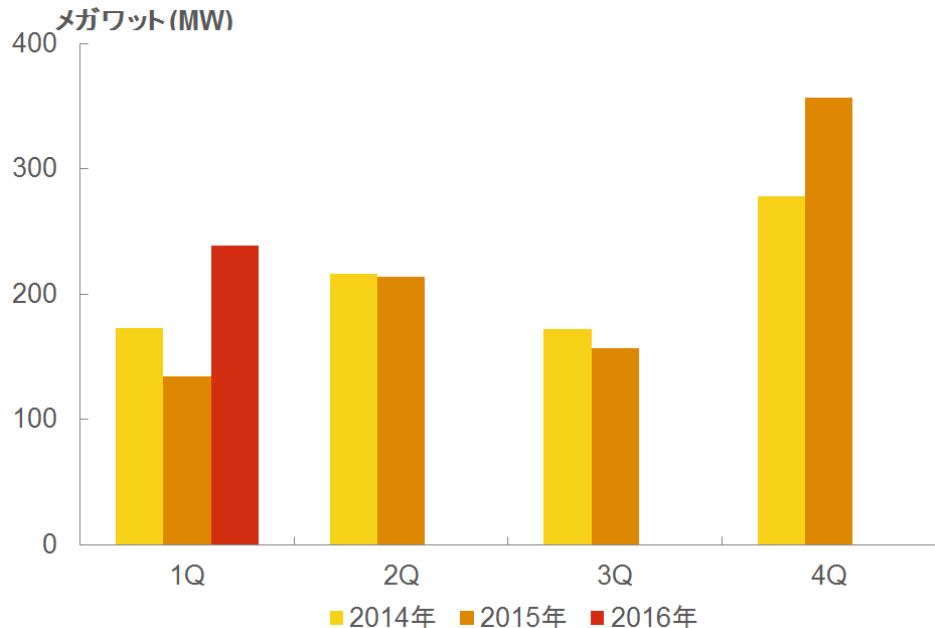
「その他」において前年同期比で大幅に減少している主要因は、2015年4月からLPガス元売事業統合会社「ジクシス株」が発足したことに伴い、LPガス供給の7~8割を占める輸入品がジクシス自身の調達に切り替わったため。1-3月期におけるインパクトは国内販売合計において約▲5%に当たる

*化成品： ミックスキシレン、ベンゼン、プロピレン

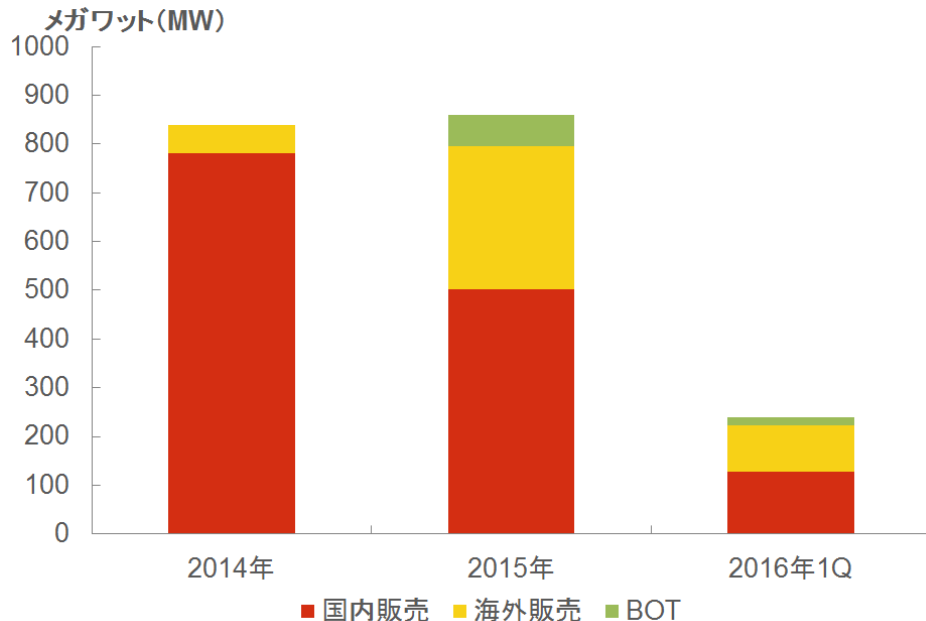
事業概況 (1-3月) - 太陽電池事業



四半期別 モジュール出荷数量



地域・用途別モジュール出荷数量



- パネル出荷数量は前年同期比で大幅に増加。国内・海外ともに計画に沿って順調に進捗
- 中期戦略に基づき、国内では将来的に安定した需要が見込まれる住宅向けにフォーカスし、海外では新たな販売先を構築しながら、BOT*ビジネスなどの付加価値型事業も推進
- 米国でのBOTビジネスは、2月には第2号案件も販売先を決定するなど、順調に進捗
- 国富工場は高稼働を維持。継続して生産コスト低減に向け活動。東北工場は立ち上げの最終段階にあり、第2四半期において商業生産への移行を予定

*BOT: Build(建設), Own(所有), Transfer(販売)の略称。太陽光発電所を開発し、最終的に発電所そのものを第三者へ販売するビジネスモデル



2016年第1四半期 トピックスー電力事業



「ガソリンが10円/L安くなる電気(ドライバーズプラン)」を開始

2016年4月から、競争力ある自社電源を持つ東京電力エリアで、ガソリン・軽油のユーザーを対象とし、ご家庭向けの新しい電力料金プラン「ガソリンが10円/L安くなる電気(ドライバーズプラン)」の提供を開始しました。

SSというグループの強みを活かし、お客様にとってより便利でお得なわかりやすいサービス内容を目指しました。 ※詳しくは当社HPをご参照ください。

- 石油事業のSSネットワークを活用し、電力販売を行うとともに、SSの顧客基盤も強固にするといった事業間シナジーを最大限追求したサービス
- 「カーライフをお得に楽しみたい」、「電気もお得に使いたい」という2つのニーズに対応する電気とガソリンのセットサービスで、SSのお客様のためにメリットをシンプルに設定
- 現在お手持ちのクレジットカードやPontaカードのメリットも引き続きご利用いただける利便性も提供



着実に進む自社電源の拡大

当社グループでは、昨年11月の「京浜バイオマス発電所」、当年2月の「扇島パワーステーション3号機」の稼働開始により、合計発電能力が約30%増加し、約60万kWまで拡大しました。国内最大の需要地である首都圏にて、事業間シナジーを活用した競争力ある発電源を確保し、事業規模の拡大を進めています。



京浜バイオマス発電所
(燃料: 木質ペレット、パームヤシ種殻)



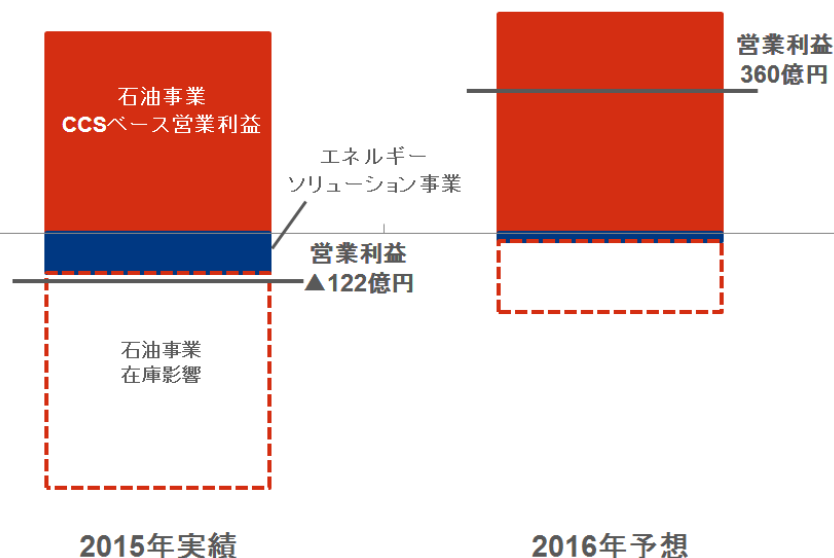
扇島パワーステーション
(燃料: LNG)

2016年12月期連結業績予想

※2月10日に発表した業績予想は変更していません

(百万円)	2015年 実績	2016年 予想	億円
売上高	2,177,625	1,680,000	700
営業利益	-12,209	36,000	600
※在庫影響	-54,826	-18,000	500
※CCSベース営業利益	42,617	54,000	400
石油事業	51,014	56,000	300
エネルギーソリューション事業	-10,191	-2,000	200
その他および調整額*	1,794	-	100
経常利益	-13,282	36,000	0
※CCSベース経常利益	41,544	54,000	-100
親会社株主に帰属する当期純利益	-27,467	16,000	-200
			-300
			-400
			-500
			-600
			-700

セグメント別営業利益予想



*「その他および調整額」の2016年度予想は、「石油事業」に含まれています。

<業績予想の前提>

■ 石油事業:

- ✓ 円建てでの原油価格は今後も低位で推移することを前提とし、第1四半期で生じたマイナスの在庫評価影響が残ることを見込む
- ✓ 前提である原油価格の低位推移を踏まえ、製品マージンの安定化、継続した自家燃料費などのコスト低減効果を見込む

■ エネルギーソリューション事業:

- ✓ 太陽電池事業は、計画に沿ったパネル出荷進捗、BOT収益、継続したコスト改善、一定のパネル価格下落を見込む
- ✓ 電力事業は、新設した2発電所の運転開始、およびそれに対応する増販、販売ポートフォリオの最適化による収益貢献を見込む

2016年12月期 業績予想の前提と感応度

■ 業績予想における原油価格および為替レートの前提(年間平均)

		前回(2月) 予想	今回 予想
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	30	30
為替レート	(円/USD)	120	120

■ 前提の変化に伴う在庫評価損益への影響額 (2016年4～12月の影響額)

	変動幅	在庫評価への 影響額(億円)
ドバイ原油価格	1ドル/バレル	15
為替レート	1円/USD	4

* 原油価格の変動の仕方や在庫数量によって、結果が異なる可能性があります。

* 低価法の影響は考慮しておりません。

Data Book

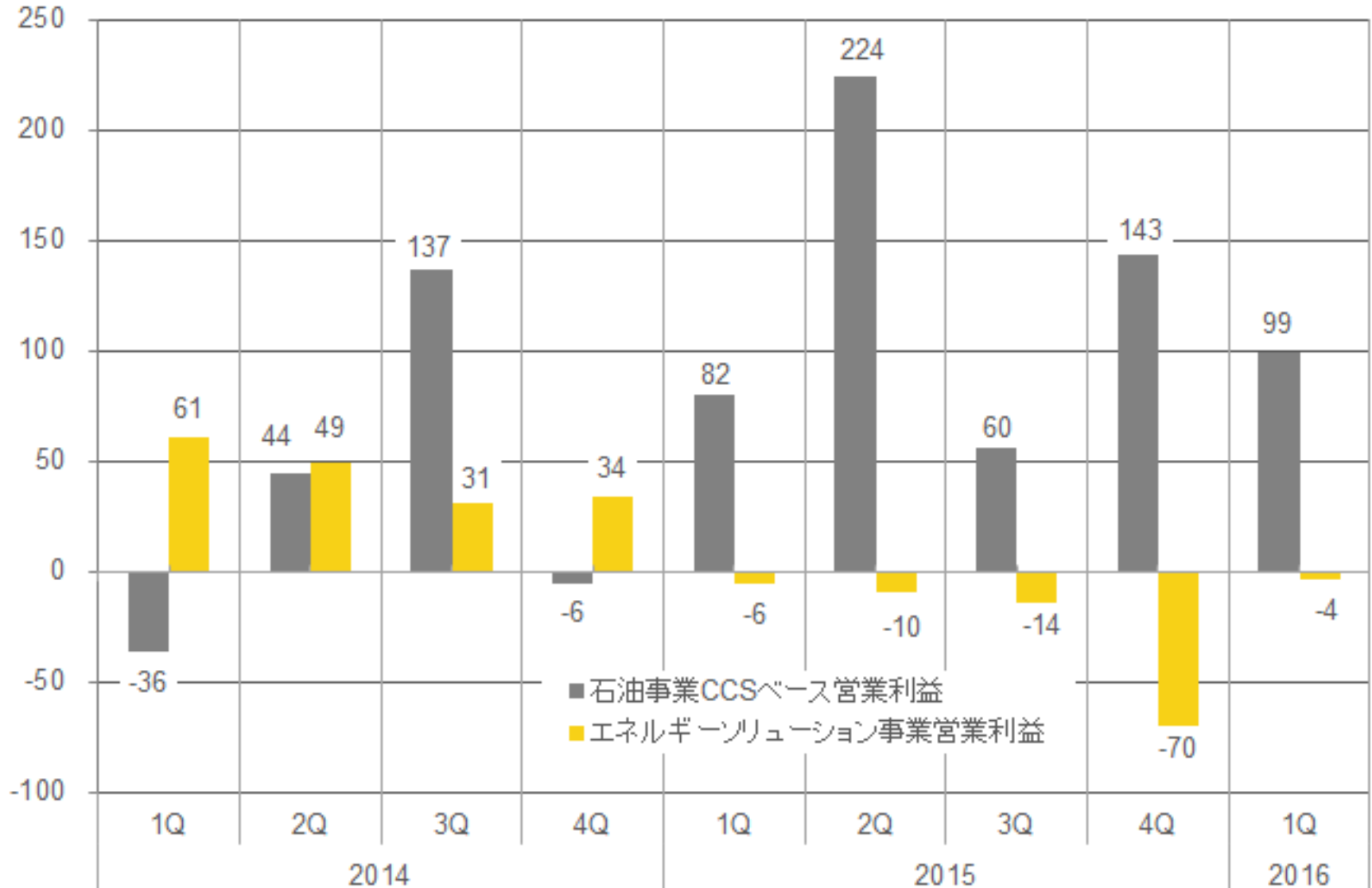
四半期別 経常利益の推移 (CCSベース)

億円



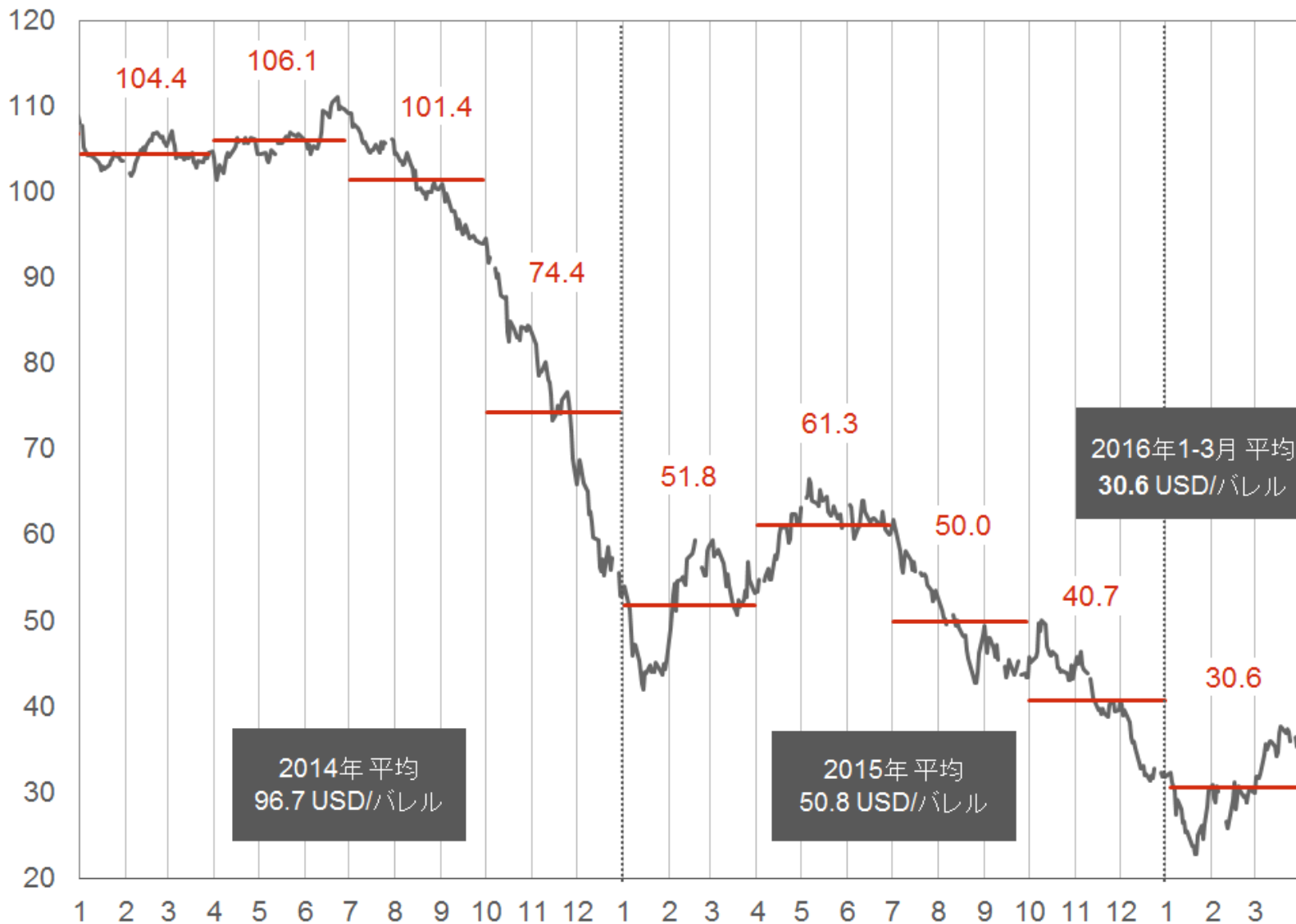
四半期別 セグメント別 営業利益の推移 (CCSベース)

億円



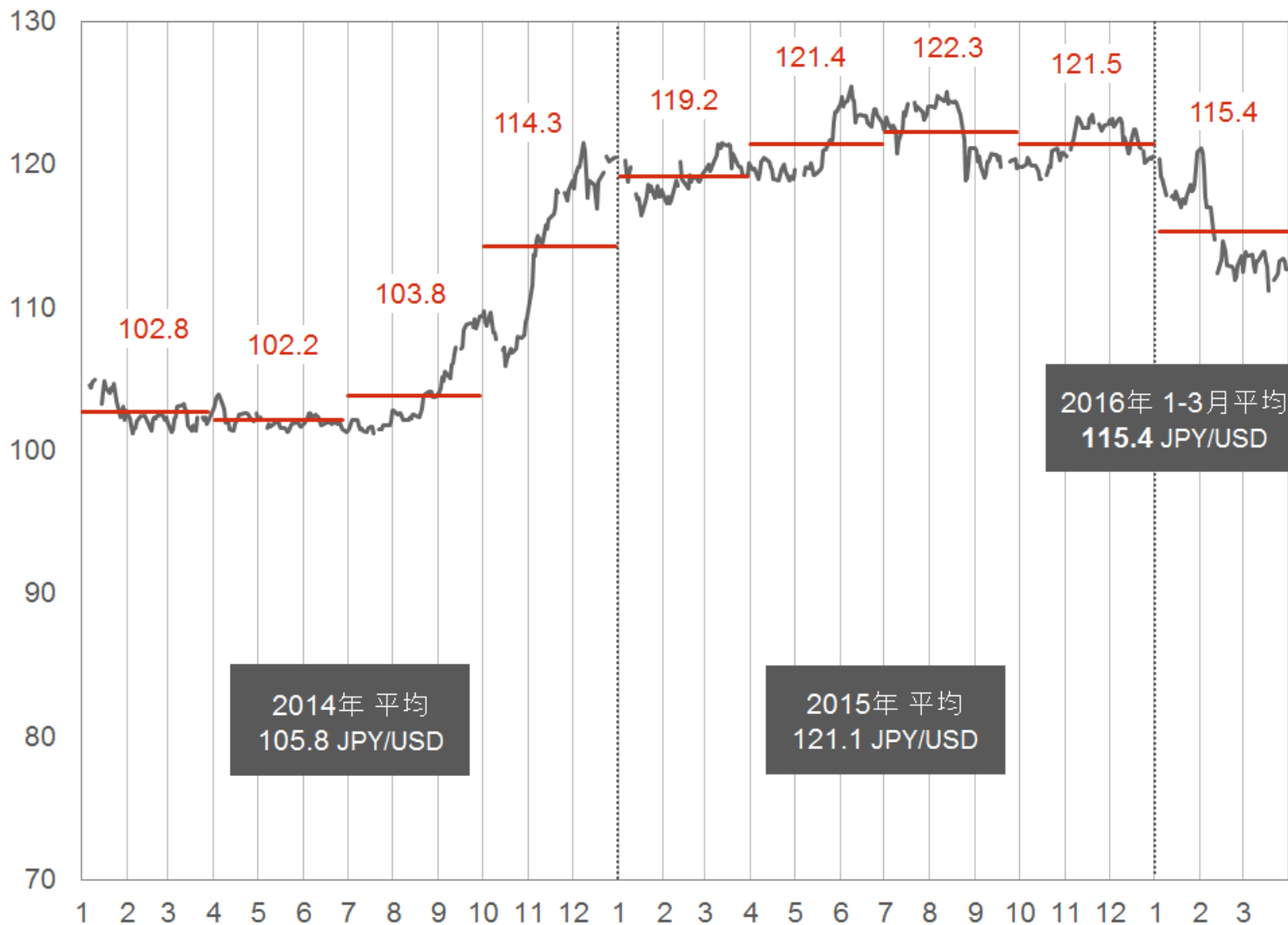
ドバイ原油価格の推移

(USD/バレル)



為替レートの推移（円/アメリカドル 仲値）

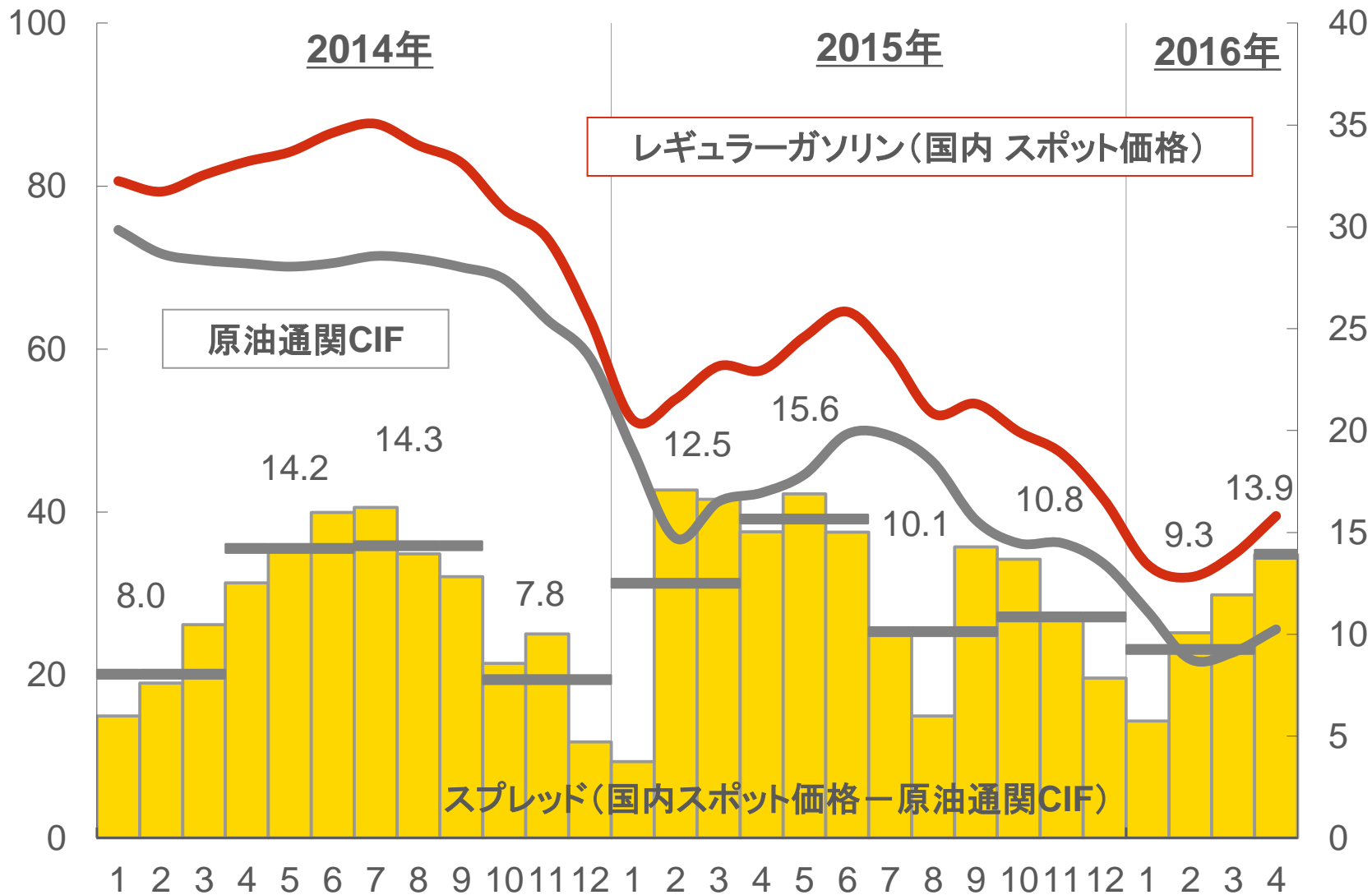
(円/USD)



国内マーケットの状況① (ガソリン)

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L

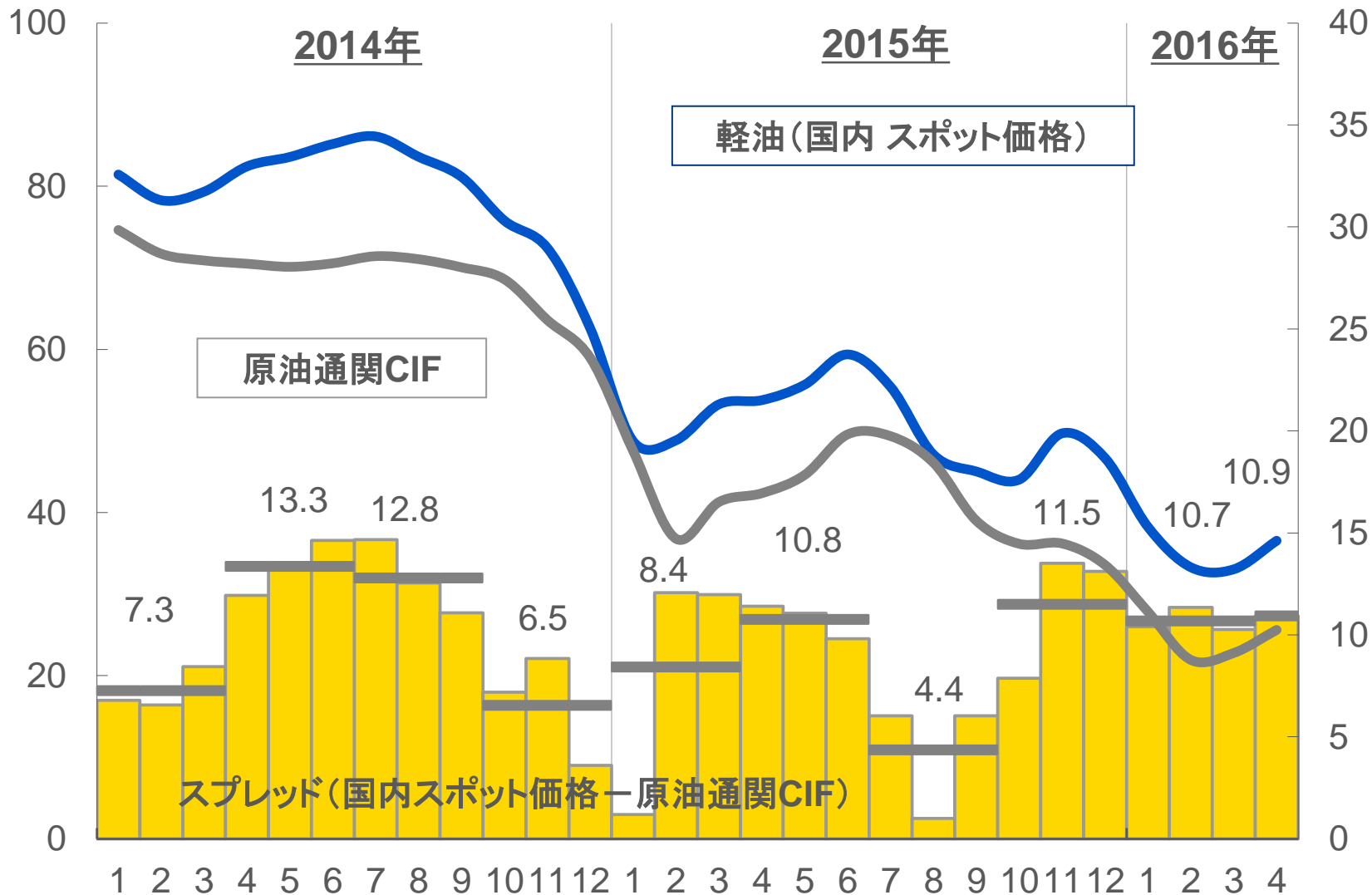


・原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より ※2016年4月の原油通関CIFは暫定値

国内マーケットの状況②（軽油）

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L

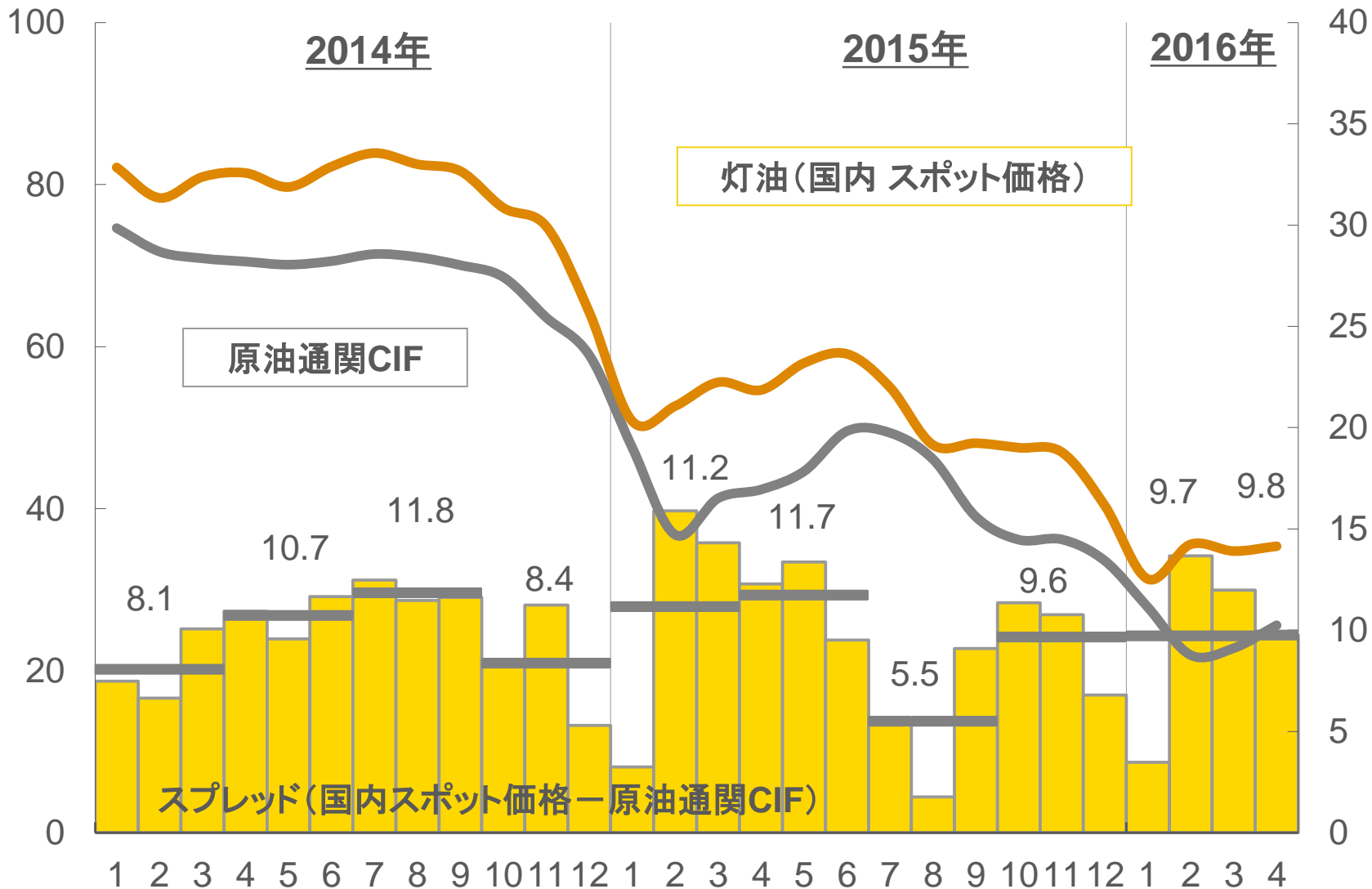


・原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より ※2016年4月の原油通関CIFは暫定値

国内マーケットの状況③（灯油）

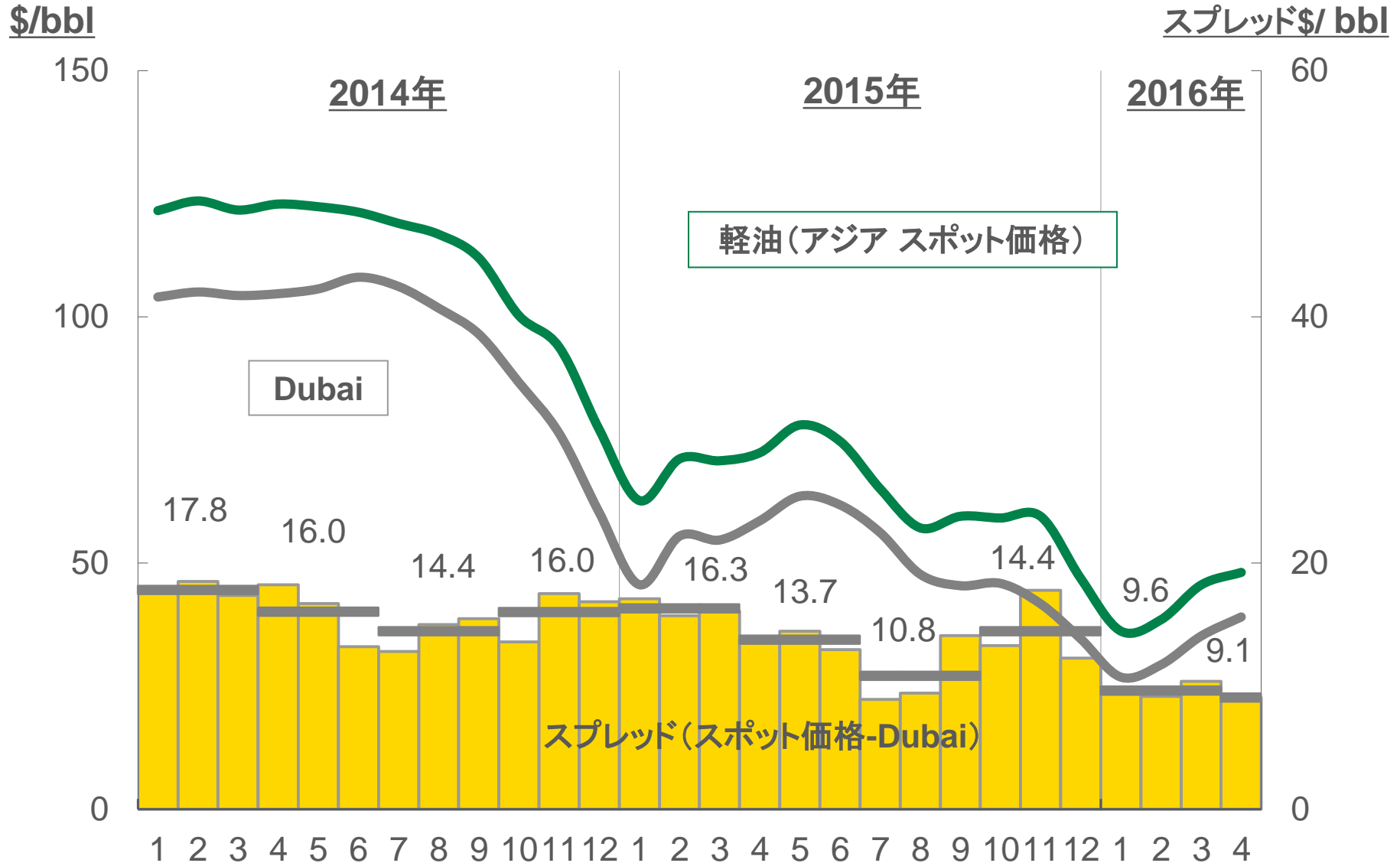
原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L



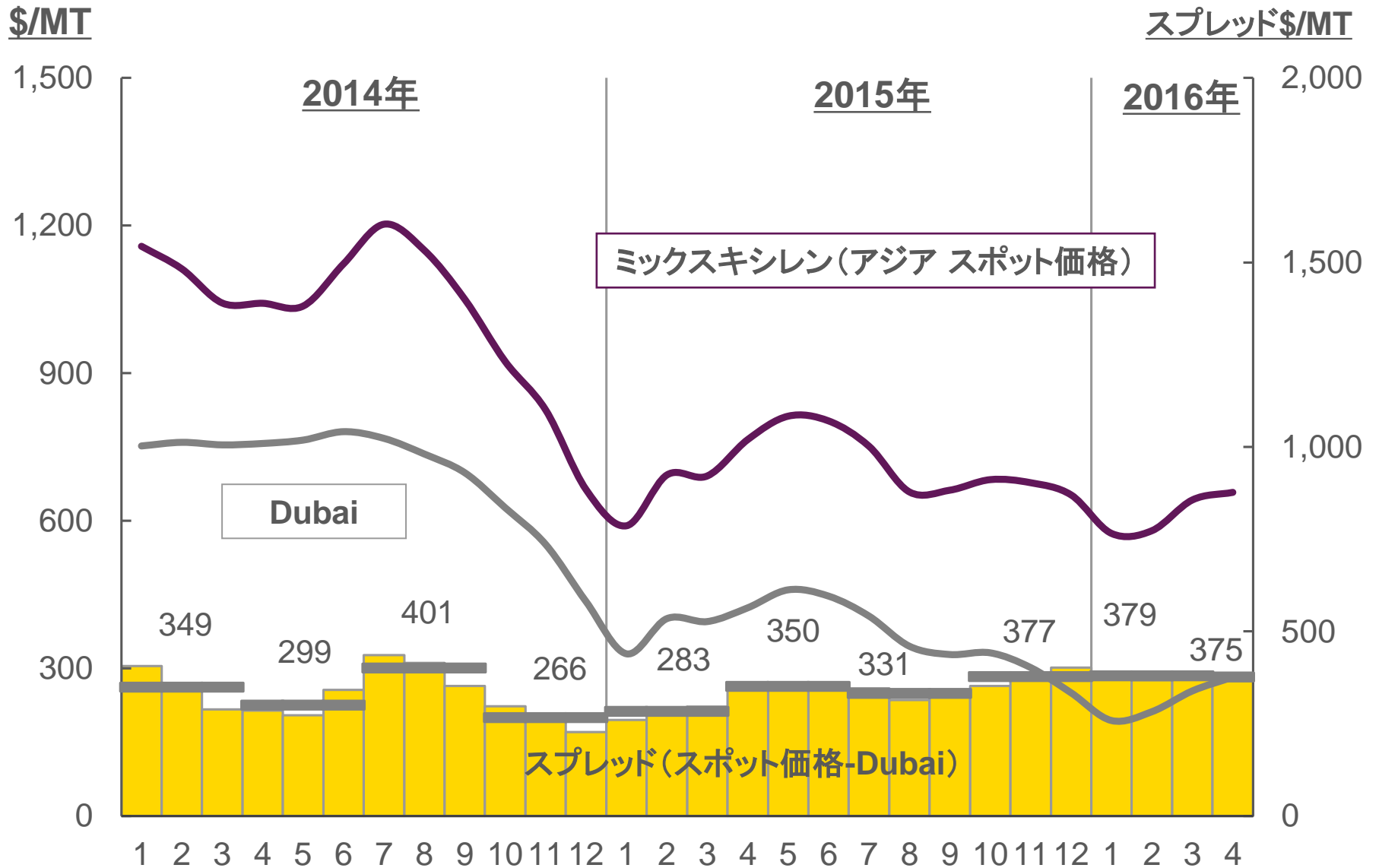
・原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より ※2016年4月の原油通関CIFは暫定値

海外マーケットの状況①（軽油）



・Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

海外マーケットの状況②(ミックスキシレン)



・Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

